

## 調査結果の概要

### ■ 平成30年度の成果

- 有明海と八代海を代表する漁獲対象種、生態系を特徴づける種、人への危害が懸念される種として予測対象種13種を選定した。

分野	予測対象種
漁業	ノリ、ワカメ、ブリ・マダイ
	ヒラメ・カレイ類、ムツゴロウ、マアナゴ、ハモ・サワラ・ハタ類、アサリ、ハマグリ、シャトネラ赤潮
生態系	希少貝類・カニ類、藻場全般
人への危害	南方系フグ・ヒョウモンダコ

- ノリ養殖については、秋芽枚数、採苗日、平均単価等の項目に水温との関連性がみられた。また、ノリ藻体量の日増加率、採苗開始水温、葉体の生長上限水温等の知見を得た。
- ヒアリング結果、既存文献結果、予測結果から、水温の上昇により漁期開始日となる採苗日は現況より遅くなり、漁期終盤の3月はノリの生長・収穫が困難になるため、漁期は短くなるものと予測された。
- アサリについては、水温が高いほど成長速度は速いが、35℃の高温になると斃死するという知見が得られた。また、浮遊幼生の成長速度と水温、漁獲量と冬季の水温に関する知見を得た。
- 藻場については、有明海・八代海に分布する藻場とその構成種、分布範囲についての知見を得た。また、アマモ場、ガラモ場、海中林藻場の主要な構成種について、水温、塩分等と生存率、生長率等に関する知見を得た。
- 八代海産のシャトネラ赤潮、その他の主な植物プランクトンの増殖速度は水温と塩分の重回帰式(3次多項式)で近似できるという知見を得た。

### ■ 明らかとなった課題

- 各県、地先によって、水温や塩分のデータ測定間隔、データの蓄積期間等が異なること、病気による被害の程度が統一された精度・基準で評価されていないため、定量的な評価ができる項目が少ない。

### ■ 平成31年度の調査計画

- ノリ以外の予測対象種について、水温、塩分と漁獲量、漁期等について関連性の有無を検討する。関連性がみられた場合は、これをもとに将来の漁獲量等を定量的に予測する。さらに、定量的な予測ができる種については、適応策を検討する。

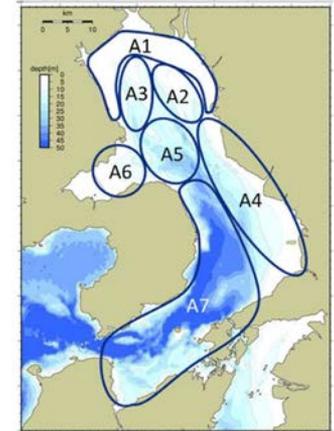
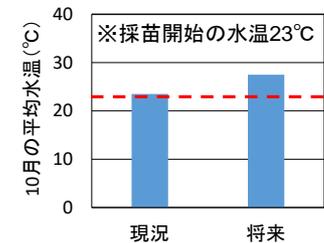


図.「有明海の海域区分」

※「有明海・八代海等総合調査評価委員会報告書」より 水質のクラスター解析によるグルーピング化をもとに、重要な二枚貝の生息状況を勘案して海域区分されたもの。

10月の平均水温  
(RCP8.5、MRI-CGCM3、21世紀末)  
A1海域(佐賀県)



3月の平均水温  
(RCP8.5、MRI-CGCM3、21世紀末)  
A1海域(佐賀県)

